

近畿大学理工学部社会環境工学科 学生員 ○田中 亮輔
 近畿大学理工学部社会環境工学科 正会員 岡田 昌彰

1. はじめに

近年、農地の減少により農業用水の確保という本来の目的を失いつつあるため池に関し、決壊対策など安全性の議論とともに新たな文化的価値を見出す動きが見られる。本研究では、各地域文化と深く関わりをもつ伝承と信仰に着目した。三木市及び周辺地域のため池17池を対象とし、文献及び現地調査による伝承・信仰の実像の解明を目的とする。

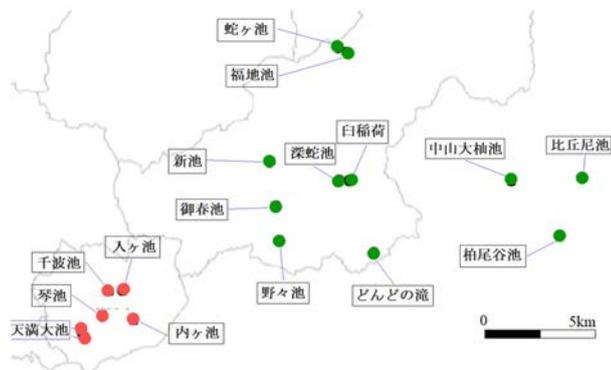


図-1 調査対象としたため池17池

2. 地形的特徴とため池の概要¹⁾ (図-1)

三木市と神戸市北区の一部からなる旧美囊郡の大半を台地と丘陵地が占め、平野は狭小である。また、地下水に乏しく河川流量も少ないため数多くのため池が築造され、三木市のみでも3099池と全国有数である。また、丘陵の谷を堰き止めたことで決壊による水害も発生している。

一方、隣接する稲美町ではこれとは対照的な平坦な地形が広がり、県内最大の加古大池や歴史的な天満大池などを含む88池のため池が現存している。

3. ため池の伝承と信仰(表-1)

本研究では、各ため池のもつ伝承・信仰について文献・ヒアリングをもとに情報収集し、各内容に加え関連事象、有形の信仰対象、祭事、伝承生起と竣工年をもとに分類整理した。

(1) ため池の安定祈願：決壊後と造成時の相異

伝承・信仰は利水、治水に関連するものがそれぞれ11池、6池において存在することがわかった。その中で治水に関連するものは旧美囊郡で福地池、御春池、中山大杉池、柏尾谷池の4池に、稲美町では琴池、入ヶ池に確認できた。

a) 旧美囊郡：完成後の決壊と安定祈願

中山大杉池(図-2)では堤が決壊後の修復時に安定祈願を目的に牛を生贄にする伝承が確認できた。旧美囊郡で確認された4件の伝承全てがため池の堤の決壊を発端として生起していることがわかった。



図-2 中山大杉池

b) 稲美町：造成時(完成前)の安定祈願

一方、稲美町の琴池、入ヶ池においては、造成時(完成前)において堤の安定を祈願しそれぞれ琴、女性を生贄に捧げたという伝承の存在を確認した。

以上より、旧美囊郡、稲美町における安定祈願の伝承は、ため池の完成前/決壊後である点で対照的であることがわかる。前者では地形的特徴に起因する水害の多発とともに完成後の予期せぬ決壊に起因した伝承が存在しているのに対し、平坦な地形ゆえに堤防の造成が困難である後者においては完成前の安定祈願が卓越していたものと考えられる。

(2) 有形の信仰対象(天満神社、深蛇堂など)

御堂、祠など有形の信仰対象が12池で確認できた。稲荷神や弁財天など多種多様な祭神が祭られているが、いずれも五穀豊穡にまつわるものであった。稲



図-3 深蛇池の深蛇堂

美町国安の国安天満神社で現在も行われている神輿渡御は、天満大池に神輿を浮沈させ五穀豊穡と池の満水を願う行事である。また、かつて三木市が旱魃に見舞われた際、深蛇堂(図-3)が雨乞いの祭りに利用されるなど、ため池にまつわる祭りと農業との深い関連性が指摘できる。

一方、三木市の雨乞いに際し「授かった水は、池を廻り少しづつ池神に捧げられた」、また稲美町史でも「松明を点し

て池の堤を回る」慣習を記録した民話を確認することができた。いずれもため池自体に池神や大蛇を映し信仰対象とする事例であることがわかる。

(3) 竣工年と伝承の生起年

6池において、竣工年とともに伝承の生起年が判明した。稲美町にある琴池、入ヶ池の伝承は、ため池の完成と同時期に生起しているの

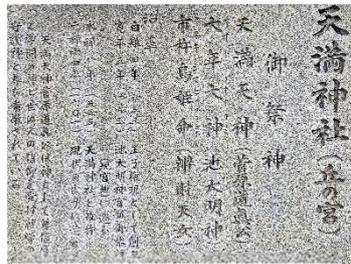


図-4 天満神社の石碑

に対し、天満大池のもつ2件の伝承は、竣工年と生起年に大きな時間差があることがわかった(表-1)。また、稲美町国安にある国安天満神社の石碑において、古くは天満大池を池大明神と称し、五穀豊穡を司る大歳神と同一視し祀っていた事実が記述されているのを確認した(図-4)。このように、ため池自体を神格化する特徴的なアニミズムが、ため池の完成と同時期(稲美町)、あるいは事後的(天満大池)に生起していることを確認した。

(4) ため池の名称と負の記憶

伝承における生贄対象、及び雨乞いの様態をため池の名称に冠するものがそれぞれ3事例、2事例あることがわかった。また、福地池には「僧の生贄」、蛇ヶ池では「干ばつ時の雨乞い」の伝承が確認できた。いずれも人知の及ばぬ苦難を生贄や祈りによって解消したものといえ、いずれも地域の「負の記憶」が反映されていることが明らかになった。

(5) 周辺環境の変化(ため池の消滅)と伝承・信仰の維持

ため池の中には、宅地開発等に伴う周辺環境の変化によって消滅後も伝承・信仰のみが維持されている事例を確認した。三木市志染町に位置する水神は、水の重要性を説く「どんどの滝の伝承」を現在に伝えているが、かつて吞吐ダム(1992

年竣工)建設による水没地に立地しており、後に周辺の山頂に移転され、現在は三津田鍋宮神社(図-5左)として祀られていることがわかった。一方、弁慶の弁当に入っていた大きな石を水神として祀ったとされる「野々池の水神」は、現在は住宅地内の一角に祀られている(図-5右)。ここでは、地域住民による草刈りや溝掃除の後に御酒が供えられ、野々池で昼飯を頂く「野普請」なる行事が近年まで存在していたことがわかった。このように、ため池の消滅や宅地化という劇的な環境変化に際してもなお、現地あるいは移転によって社が存続し、地域住民の信仰の場として活用され続けている事例があることがわかった。



図-5 ため池の消滅後も存続する社
左) 三津田鍋宮神社 右) 野々池の水神

4. 結語

本研究の成果として、以下の5点を明らかにした。

- 1) 地域の地形的特徴の伝承への反映
- 2) ため池自体が信仰対象となる事例の指摘
- 3) ため池自体を神格化するアニミズムの存在
- 4) ため池の名称と「負の記憶」との関連
- 5) ため池の消滅後も存続する、ため池発祥文化の指摘

参考文献

- 1) 三木市史 三木市役所 1970年
- 2) 吉川町史 吉川町教育委員会 1970年

表-1 伝説・信仰をもつため池のまとめ

名称	所在地 *:旧美濃郡	伝承・信仰 内容	関連事象と 伝承生起	有形の信仰 対象	祭事	伝承・信仰の 生起年	竣工年	貯水量 (千㎡)
蛇ヶ池	*三木市口吉川町	大蛇伝説	利水			779年	(不明)	40
不明	*三木市志染町	稲荷伝説	利水	白		(不明)	(不明)	(不明)
不明	*三木市志染町	どんどの滝	利水	神社		(不明)	(不明)	(不明)
新池	*三木市平井	稲荷神勧請	利水	供養塔		1939年	1850年頃	28
深蛇池	*三木市志染町	大蛇伝説	利水	深蛇堂		(不明)	(不明)	13
福地池	*三木市口吉川町	人柱伝説	治水(決壊後)	祠		(不明)	(不明)	40
御春池	*三木市志染町	大將軍信仰	治水(決壊後)	神社		1900年頃	(不明)	104
野々池	*三木市志染町	水神伝説	利水	大岩		1100年代	(不明)	(不明)
中山大杣池	*神戸市北区淡河町	牛柱伝説	治水(決壊後)			1743年	600年代	61
柏尾谷池	*神戸市北区山田町	牛柱伝説	治水(決壊後)			1600年代	(不明)	(不明)
比丘尼池	*神戸市北区八多町	人柱伝説	利水			(不明)	(不明)	15
天満大池	稲美町六分一	みこし渡御	利水	神社	秋祭り	901年	675年頃	476
天満大池	稲美町六分一	弁財天祭祀	利水	弁財天像	秋祭り	1390年	675年頃	476
内ヶ池	稲美町岡	獅子舞奉納	利水	神社	天満祭	(不明)	1670年頃	140
琴池	稲美町国安	琴奉納	治水(造成時)			1676以前	1676以前	275
千波池	稲美町国岡	弁財天祭祀	利水	弁財天社		(不明)	1662年	200
入ヶ池	稲美町北山	人柱伝説	治水(造成時)	社	お入法要	714年	714年	279